

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Long-term estrogen-deprived estrogen receptor α -positive breast cancer cell migration assisted by fatty acid 2-hydroxylase.	共著	2025 年 1 月	J. Biochem. 177: 57-64	エストロゲン受容体 α (ER α)陽性閉経後乳がんモデル LTED 細胞は、親細胞の MCF-7 細胞と比べて、脂肪酸 2 位水酸化酵素 FA2H のタンパク質発現が高く、細胞遊走も亢進していた。LTED 細胞の遊走は、FA2H のノックダウンにより MCF-7 細胞レベルに抑制された。閉経後再発乳がんの治療に用いられるフルベストラントは LTED 細胞の FA2H 発現および細胞遊走に影響を与えなかった。FA2H は再発乳がんの悪性化に関与することが明らかとなった。(8 頁) (要田恒希、平尾(鈴木)雅代、小林隆信、佐藤雄己、大原正裕、竹田修三) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
2 (学術論文) 2-Methoxyestradiol as an antiproliferative agent for long-term estrogen-deprived breast cancer cells. 《筆頭論文》	共著	2023 年 9 月	Curr. Issues Mol. Biol. 45: 7336-7351	2-メトキシエストラジオールは β -チューブリンのアイソタイプ TUBB2B を標的として、内分泌療法抵抗性乳がん細胞モデル LTED 細胞に対する抗増殖作用を示した。(16 頁) (平尾(鈴木)雅代、要田恒希、瀧口益史、杉原成美、竹田修三) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
3 (学術論文) Repeated exposure to 4-methyl-2,4-bis(4-hydroxyphenyl)pent-1-ene (MBP) accelerates ligand-independent activation of estrogen receptors in long-term estradiol-deprived MCF-7 cells. 《筆頭論文》	共著	2023 年 2 月	Toxicol. Lett. 378: 31-38	閉経後乳がん細胞モデルである LTED 細胞において、ビスフェノール A 代謝物 MBP の反復曝露は ER α と ER β の発現バランスを破壊させ、亢進したリン酸化シグナル修飾を介してリガンド非依存的に ER β を活性化させることが明らかとなった。(8 頁) (平尾(鈴木)雅代、瀧口益史、吉原新一、竹田修三) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
4 (学術論文) Cannabidiolic acid activates the expression of the PPAR β / δ target genes in MDA-MB-231 cells. 《筆頭論文》	共著	2022 年 10 月	Arch. Biochem. Biophys. 731: 109428	ヒト乳がん MDA-MB-231 細胞において、繊維型大麻草主成分カンナビジオール酸(CBDA)が PPAR β / δ の合成リガンドと相乗的に PPAR β / δ の標的遺伝子の発現を誘導することを明らかにした。加えて、CBDA が内因性のリガンドを介して PPAR β / δ に作用する可能性が示唆された。(7 頁) (平尾(鈴木)雅代、古賀貴之、瀧口益史、Peters J.M.、竹田修三) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5 (学術論文) Perfluorooctanoic acid (PFOA) as a stimulator of estrogen receptor-negative breast cancer MDA-MB-231 cell aggressiveness: Evidence for involvement of fatty acid 2-hydroxylase (FA2H) in the stimulated cell migration.	共著	2022 年 4 月	J. Toxicol. Sci. 47: 159-168	ER α 陰性ヒト乳がん MDA-MB-231 細胞において、ペルフルオロオクタタン酸(PFOA)は PPAR α の転写を活性化し、その標的遺伝子の FA2H 依存的に細胞遊走を促進することが明らかとなった。また、PFOA は PPAR β / δ による PPAR α の抑制を解消することが示唆された。(10 頁) (境絃樹、平尾(鈴木)雅代、古賀貴之、小林隆信、上敷領淳、田中満崇、藤井清永、瀧口益史、杉原成美、戸田晶久、竹田修三) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。